

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：32690

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530422

研究課題名(和文) 英領期シンガポールの経済成長と景気変動に関する実証的分析

研究課題名(英文) Economic growth of Colony of Singapore and Empirical Investigation on Business Cycle

研究代表者

杉本 一郎 (Sugimoto, Ichiro)

創価大学・経済学部・准教授

研究者番号：50546364

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、第1に1870-1900期の英領シンガポールにおける歴史GDP推計を行い、中でも主要構成支出である民間最終消費支出の推計を行なった。第2に各種推計結果を用いて英領シンガポールにおけるステープル理論の実証分析を行った。実証分析を通じて、シンガポールからの一次産品の輸出は経済変動とともに、経済成長にとっても源泉であることを実証的に証明した。

研究成果の概要(英文)：Firstly, I conducted the construction of estimated GDP and its components of the Colony of Singapore during the period 1880-1900. As one of major components of GDP, estimates of private final consumption expenditure was attempted. Secondly, based on derived estimated figure, staple theory of Singapore was empirically tested based on these derived estimates. The results suggest that foreign trade had acted both as an engine of growth and a source of economic instability.

研究分野：経済史

科研費の分科・細目：経済史

キーワード：経済史 英領期シンガポール 歴史経済統計 ステープル理論

1. 研究開始当初の背景

歴史 GDP 推計を通じて 1900 - 39 年に英領シンガポールは成長の軌跡を描きながらも激しい景気変動を特に大戦間期 (1919 - 1939) に繰り返してきたことが明らかになった (杉本 2010)。また科研費を受けて行った研究を通して、1934 年時点で英領シンガポールの一人当たりの実質 GDP 値 (購買力平価値) は日本よりも高い可能性が分かってきた。こうした先行研究によりシンガポールは短期間に中継貿易港として特殊な経済成長を経験したことが分かってきた。しかしそのシンガポールの経済成長と景気変動を誘因する内的・外的要素について十分な基盤研究が行われていなかった。本研究では英国植民省資料 (CO Series) の一次文献ならびに各種先行研究を精査し、国内外の政治経済環境の時系列的な変化の把握と、独立変数の抽出を行う。その上で、推計結果を再検証し、実証的研究を行う事を基本的問題関心に設定した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、英領期 (1870 - 1940、1946 - 58) のシンガポール経済を体系的に網羅した「英領期シンガポール経済史 (仮題)」を研究書として出版する事にある。設定した本目的遂行のため、本研究では応募者が行った英領期シンガポールの歴史 GDP 推計 1900-39、1950-60 と実証分析 (杉本 2010) を展開し、英領シンガポールの経済成長と景気変動を誘因した内的・外的要素を精査、抽出し、実証的分析を行う。具体的には第 1 に 1870-1899 期の GDP 推計を加え、英国直轄領期を網羅する長期経済統計を整備する。第 2 に英領期の経済成長や景気変動を誘因した内的・外的要素を一次文献ならびに先行研究を精査、抽出し、推計結果との整合性を確認する。第 3 に前述の研究に基づいて、英領期の経済成長と景気変動に関する実証的分析を行う。

3. 研究の方法

本研究は、「研究目的」で示した研究課題を達成するため、①歴史 GDP 推計に関連した英国植民地統計を英国国立公文書資料館所蔵の CO シリーズのデジタル DVD を精査し、その他シンガポール関連の文献をシンガポール国立図書館、シンガポール国立公文書資料館、シンガポール国立大学図書館、英国図書館で資料探索する。②資料をベースに 1870 - 99 までの歴史 GDP 推計のためのデータ入力をし、加工推計を行う。③経済成長と景気変動を誘因した内的・外的要素を説明する資料を抽出し、時系列的にまとめる。④長期歴史統計と史料の精査をもとに実証分析を行う。最終年度には研究成果を、国際的に経済史関連のジャーナルで年度末には研究成果の投稿を行い、研究成果の公開を行う。

4. 研究成果

平成 23 年度には関連資料の所在確認を行い、英国公文書館から CO275、CO940、CO953、CO1022 の資料を購入した。また 4 つの国際会議、一橋大学、ロンドン大学、シンガポール、学習院大学での報告を行なった。この期間に歴史 GDP 推計のデータ入力を行なった。

平成 24 年度には、7 月と 9 月に World Economic History Congress と Asian Historical Economic Conference 2012 で、英領期の経済成長と、歴史 GDP 推計に関する報告を行なった。研究作業としては、Public Record Office から Straits Settlements, Blue Books の資料を購入し、新規入手した統計資料を活用して、1870-1900 の期間における推計作業を推進させた。また 19 世紀から 20 世紀前半期を対象とした経済誌関連の書籍を購入し、Journal への投稿を行ってきた。

平成 25 年度には Singapore Economic Review Conference 2013 で民間最終消費支出の新推計結果を報告した。(図 1 を参照)

図 1 (a) 英領シンガポールにおける民間最終消費支出 1880-1939 (当年価格, 1914 年価格)

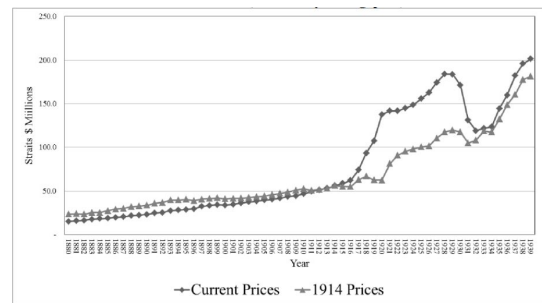
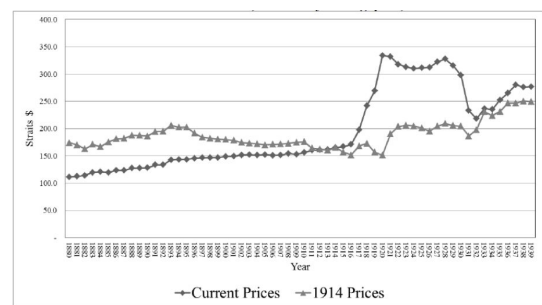


図 1 (b) 英領シンガポールにおける 1 人あたりの民間最終消費支出 1880-1939 (当年価格, 1914 年価格)



また、本研究期間に行なった研究成果を Australian Economic History Review という Journal に Singapore Monetary Authority の Choy, K.M とともに、Trade, the Staple Theory of Growth, and Fluctuations in Colonial Singapore, 1900-1939 と題して出版した。本論文では、歴史 GDP 推計と関連した経済統計を活用して、英領シンガポールにおけるステープル理論の適応性について実証分析を行なった。実証分析の結果、英領期シンガポール期の外国貿易は経済成長のエンジンであり、また経済

の不安定性の源泉となることを証明した。
(表1を参照)

表2：回帰分析結果

| | Export trend growth | |
|----------------------|---------------------|----------------|
| | [1] | [2] |
| Constant | -11.45 (-7.14) | -9.544 (-9.33) |
| World trade | 0.599 (6.53) | 0.327 (3.24) |
| Lagged export prices | 0.146 (9.79) | 0.125 (13.21) |
| Conference dummy | -4.66 (-5.42) | -3.32 (-4.96) |
| R ² | 0.78 | 0.99 |
| S.E.E. | 1.95 | 0.34 |
| DW | 0.3 | 2.41 |

| | Export cycle | | |
|-----------------|--------------|--------------|--------------|
| | [1] | [2] | [3] |
| Constant | 4.78 (0.66) | 6.7 (0.85) | 6.46 (0.84) |
| Foreign income | - | - | 6.27 (2.51) |
| Western income | 5.21 (1.64) | 3.52 (0.89) | - |
| Regional income | 1.15 (0.52) | 2.32 (0.86) | - |
| Rubber price | 0.655 (2.94) | 0.712 (1.38) | 0.65 (1.27) |
| Tin price | 2.28 (6.21) | 2.78 (5.14) | 2.56 (5.91) |
| Petroleum price | 0.943 (3.92) | 0.97 (2.87) | 1.09 (4.12) |
| War dummy | -191 (-3.81) | -222 (-3.97) | -217 (-4.01) |
| R ² | 0.78 | 0.77 | 0.78 |
| S.E.E. | 44.9 | 47.4 | 46.3 |
| DW | 1.83 | - | - |

注：()はt値

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

Keen Meng, Choy and Sugimoto, Ichiro (2013) "Trade, The Staple Theory of Growth, and Fluctuations in Colonial Singapore, 1900-39", *Australian Economic History Review*, Vol.53, No.2, pp.121-145.

杉本一郎(2012) "Exploration of Economic Growth Analysis of Singapore: Construction of Historical GDP Estimates (1900-39 and 1950-60) and Empirical Investigation-Brief Summary-", 創価経済論集, Vol.XLI, No.1/2/3/4, pp.47-67.

[学会発表](計 8件)

報告タイトル: Estimates of Private Final Consumption Expenditure in the Colony of Singapore, 1880-1900: Progress and Perspective.
会議名: Singapore Economic Review Conference 2013
会場: Mandarin Orchard Hotel, シンガポール、2011年8月5-7日

報告タイトル: Estimates of Private Final Consumption Expenditure in the Colony of

Singapore, 1880-1900: Progress and Perspective
会議名: Asian Historical Economics Conference 2012
会場: Hitotsubashi University, Tokyo, 2012年9月13-15日

報告タイトル: Colonial Affiliation and Economic Development: the case of British Malaya
会議名: The XVIth World Economic History Congress 2012
会場: Stellenbosch University, South Africa, 2012年7月9-13日

報告タイトル: Colonial Budget Management and Portfolio Investment in British Malaya prior to World War II
会議名: 2nd AAWH (Asian Association of World Historians) Congress
会場: Ehwa Womans University, Seoul, Korea, 2012年4月27-29日

報告タイトル: Methodology for Deriving the Private Final Consumption Expenditure Series of Singapore, 1900-1939
会議名: History of Consumer Culture 2012 Conference
会場: 学習院大学, 日本, 2012年3月26日 - 28日

報告タイトル: Colonial Affiliation and Economic Development: The case of British Malaya
会議名: Economic History Society, History and Economic Development Group, Annual Meeting 2011
会場: London School of Economics, 英国, 2011年9月26日

報告タイトル: Government Fiscal Behavior and Economic Growth of Singapore in the Twentieth Century
会議名: International Workshop on Advancing Knowledge in Developing Economies and Development Economics: Towards the Understanding of Institutions in Development
会場: Sano Shoin, Hitotsubashi University, 日本, 2011年9月23-24日

報告タイトル: Trade, The Staple Theory of Growth, and Fluctuations in Colonial Singapore, 1900-1939
会議名: Singapore Economic Review Conference 2011
会場: Mandarin Orchard Hotel, シンガポール, 2011年8月4日 - 6日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

創価大学研究者情報データベース

<https://fpes.soka.ac.jp/Main.php?action=01&type=detail&tchCd=0900010>

6. 研究組織

(1) 研究代表者 杉本 一郎

(創価大学国際教養学部教授)

研究者番号：50546364